

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

推進校実施報告書

- 1 学校名：静岡県伊豆の国市立大仁小学校
- 2 実施日時：2018（平成30）年10月25日（木）8:40-10:15
- 3 対象：4年生24名
- 4 実践形態：総合的な学習の時間でのパラリンピック種目体験
- 5 授業内容：実技体験

2018（平成30）年10月25日（木）に、伊豆の国市立大仁小学校にて、パラリンピック種目のボッチャを体験するオリンピック・パラリンピック教育実践が行われました。実践は、担任の先生によるボッチャ競技についての説明がはじめに行われ、その後、6チームに分かれた児童達が、2つのコートでボッチャの体験を行いました。一生懸命に説明を聞いたり、歓声をあげながらボッチャを体験する児童の様子が多く見られた充実した実践となっていました。

実践のはじめには、担任教諭からVTRを用いたボッチャ競技のゲームの様子が紹介されました。的確にコントロールされたボールや白熱したプレーの様子に、児童達は驚きの声や歓声をあげていました。対象となった学級では、他のパラリンピック種目や、それらで用いられている道具、あるいは、支える人々についての事前学習が行われていたとのことで、児童達のパラリンピック種目に対する高い興味関心がうかがえました。また、ルール説明にも熱心に耳を傾け、質問を交えながら、しっかりと理解しようとしていました。

ボッチャは、エンド終了時にジャックボールにもっとも近いボールを投げた側にのみ得点が入ります。今回の実践では、ジャックボールからの距離を測るための道具として、児童が前年度に使い方を学んだというコンパスが用いられていました。児童達は、教師が師範の際に用いる大きなコンパスを使って、丁寧に得点の計算をしていました。教科横断的な工夫がなされた道具の活用であったといえます。

ゲームを数回実施した後には、担当の先生によって作成された条件カードを用いて、身体的な動きの制限がある中でのゲーム参加を体験する場面が設けられていました。この条件カードには、たとえば、「肘から先を動かさない」や「いすに座ってボールを投げる」という条件が書かれていました。児童達は、各チームで1枚のカードを引き、そのカードに書かれている条件下でプレイをすることになっていました。数回のゲームを通してコツをつかみ始めていた児童たちも、それまでとは異なる身体の使い方が必要となることに難しさを感じたり、工夫を凝らしたりしていました。

児童からは、「実際にやってみて面白かった」や「もっと広いコートでやってみたい」、「本物のボッチャのボールの方が良い」、「コントロールするのが思っていたよりも難しかった」等の感想が聞かれました。

今回の実践は、事前学習だけでなく、12月に実施が予定されているパラリンピック選手の講演や、道徳の授業とも関連づけて、発展的に行われていくとのことです。また、用具等の準備状況もふまえ、来年度以降にも継続して実施していきたいとのことでした。

授業全体を通じて、ボッチャのボールの性質を活かし、バウンドさせずに転がしたり、あるいは、高く上がる

ようにボールを投げてゲームを楽しむ児童の姿が印象的な実践でした。また、ボールの近くで配置を確認しながら、チーム内でお互いにアドバイスを送って戦術を考えながらプレイする姿や、ジャックボールに近い投球をした際に歓声をあげる姿も多くみられました。今回の実践を通して、ボッチャに親しむとともに、障害の有無に関わらず楽しむことのできるボッチャ競技への理解を深めている様子でした。

教科横断的な様々な用具や場面設定の工夫がなされるとともに、発展的な学習も計画された有意義な実践となっていました。

6 授業の様子



【 講演の様子① 】



【 ゲームの様子① 】



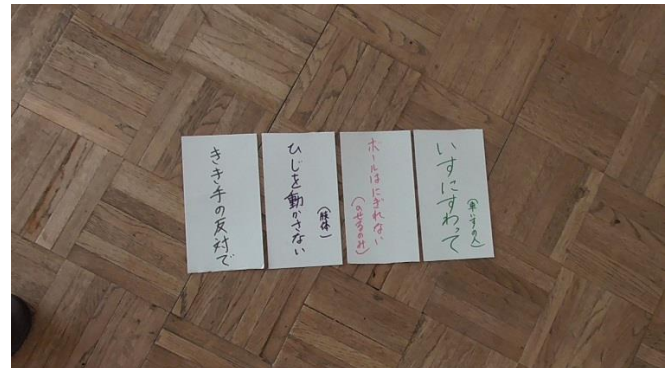
【 ゲームの様子② 】



【 ゲームの様子③ 】



【 車いすを想定した座位でのスロー 】



【 条件カードの例 】